

Listening Comprehension の一考察

影本 吉則

リスニングと記憶

Listening のメカニズムの1つは各グループごとに sentences の内容を意味単位で脳に記憶させることである。その意味単位を chunk (Richards, 1987) といい、ひとくくりにして、そのままの言語構造でなく、自分の理解範囲のもので、自分の言葉に変えて、具体的にわかりやすく脳に記憶させていくのである。

話し手が言っている言葉を自分の言葉に直し、短期記憶に入れていくのである。大部分忘却していくのでキーになる意味単位、ポキャブラリーをつながりのある意味単位で記憶していくのである。つながりのある像を頭に描き、自分の言葉でストーリーを内容あるものに、再構築したものを長期記憶に保存するのである。短期記憶ではまだ話し手が言った語彙、文法構造が脳に残っているが、長期記憶になれば内容が同じでも自分の言葉で、具体的に文の塊を脳に入れていき、忘れない自分のものになるのである (Clark and Clark, 1977: 49)。

リスニングと以前から知っている知識

Listening は文法的知識を知っていることは follow するのに有利であり、頭のなかで sentences が慣れるとすばやく catch できるようになり、1つの Listening の手法になる。と同時に世のなかのこと、世界の歴史、地理、文化、人間を知っておくと、内容を明確にするのに容易になることはもちろんのことである。こうした syntax と background knowledge は強力な聴解の武器である。

また、たとえばスピーチの場合、テーマが「不登校」とすると、「不登校」の発生、理由、原因、回復していく過程を前もって知識として知っておくことは、Listening を聴いていても、場面、場面が情景となって頭のなかに入っていく、内容をより明確に

理解するのに役だつのは言うまでもない (Schank and Abelson, 1977)。

たとえば、歯医者での対応も前もってどんなことを医者にするのか知っているのと、知らないのでは Listening の聴解も変わってくる。

Listening と冗長性

speaker の発話に癖がある場合は、早くその癖を Listener 自身のものにし、聴き手に有利なように、戦略を立てることである。たとえば、and をいつも入れる人なら、その and のときの pause を意味の chunk ととらえて、その間に内容を理解し、グループ化して記憶に入れていくことである。

また、沈黙が長い場合 (silent pauses) や、たとえば、uh, oh, hmm, ah, well, say, sort of, just, kind of, I mean, I think, I guess のような間の pauses を入れるときがチャンスであり、意味を chunk で Listening が容易になる。この間 (filled pauses) は Listeners にとって大変有利なときである。speech errors (言葉のまちがひ) も1つのチャンスと考えるべきである。訂正するとき Listeners は自分の描いた image (像) と話し手がいわんとしている事柄の内容の一致か否かを即座に見抜くことができるのも1つの聴き手のチャンスといえる (Richards, 1989)。

Listening と Rhythm and Stress

日本人にとって、必ず解決しなければいけない問題は Rhythm & Stress をいつももっていることだ。Woods (1979) によると、次の2つの文は同じ時間がかかっている。

- (1) The CAT is INTERested in protecting KITTens.
- (2) LARGE CARS WASTE GAS.

すなわち、Rhythm & Stressは聴き手に有利と考えることができる。Rhythm, Stress, Intonation, Pitchなどは多いほど、話し手が言ってくれるほど、聴き手は冗長性と同じように意味が取りやすく内容を深く考える時間を与えてくれると考えられる。話し手の言葉についていき、決して離れないことである。たとえば、列車に乗っていると考えると、いつも乗っていて、遅れてしまわないことが必要不可欠である。

Listeningの重要な1つはいつも話者についていき、わからない話は予測するか(predict), 削除(reduce)するかである。できるだけキーになる言葉をつかんでいることである(Brown, 1977)。

Conversational Listeningの技術

- 1 chunks(まとまり)として聴いたものを保存していく。
- 2 目的言語の音の違いを区別する。
- 3 1語1語速く、まとまりのある発音で行われるので語に慣れることが肝要である。
- 4 英語はrhythmicであるので、よく認識しておくこと。
- 5 発話の言語構造を知り、stressやintonationに慣れ親しんでおくこと。
- 6 強弱の発音であるので語彙を明確に理解するようにする。
- 7 Coffee, please. のような省略された形式にも注意すること。
- 8 アクセントによって見分ける能力を必要とする。
- 9 語順に慣れ、word orderの主語+動詞…をまずつかむこと。特に速い場合、主語、動詞で何かがわかるときがある。
- 10 中心的会話の話題のなかで語彙を認識する能力、たとえば、「言語」のtopicsであればacquisitionは必ず出てくる語と考えてもよい。
- 11 話題、テーマを決定するようなkey wordsをつかむことの大切さを理解する、key wordsは内容を聴き取るカギになる。
- 12 文脈から言葉の意味を推測する能力を磨くこと。guessingは常に何が言いたいのか考える戦略であり、文脈のなかから推測していくのである。一片の語から内容全体がわかることがある。
- 13 文法的、語法的に強くなっていることは、聴解でも多くの可能性をもつ。
- 14 主な文法的言い回し、口語的な会話能力をもっていることは強い味方である。
- 15 会話で筋の通った応答、文法的正しさに注意していく。
- 16 文法単位、sentencesの省略形を認識する。
- 17 文法構造を探っていく能力を必要とする。
- 18 主たる構造に注意を払う能力を必要とする。
- 19 同じことを言うのにも異なった言い方を理解する。これらすべてListeningの訓練を必要とする。
- 20 場面、参加者、目的などの発話のcommunicationを理解していく。
- 21 状況、場面を脳で再構築したり、推測(infer)する能力。文脈のなかでの意味の推測、発話の状況のなかでのinferが必要となってくる。
- 22 現実のreal world knowledge(知識)を使う能力。世間のことを知っておくことは重要な推測に役だつ。
- 23 会話のなかから事柄の結果を予測する能力。予測(predict)は言語構造においても背景知識においてもListeningに必要なことである。
- 24 事柄の間の結び付き、つながりを推測する能力。文法、語法、熟語、単語の使い方を基本的にまずもって知っておくことである。
- 25 因果関係を推し量る能力。
- 26 正確な語彙の文脈のなかでの意味の取り方の能力。
- 27 話題(topics)を明確につかみ、再構築し、脳のなかで筋道の通った文章の流れにする能力。
- 28 意味のつながりを理解し、主たる考え、賛成(支持)の考え、新しい情報、一般化などの関係を探る能力。
- 29 言葉の速さについていく能力。
- 30 pauses, 誤り、訂正は聴き手にとって大きな収穫になり、ゆとりになるので有効に使うこと。
- 31 意味を解決するために顔の表情、gesturesなど有効に利用すること。
- 32 内容を知るために戦略を用いること。
- 33 確認のため、聴き手も、言葉に出して理解が正しいかどうか相手に確かめることも最後には必要となるだろう。

講義(Lectures)をListeningする技術

- 1 講義の目的, 中心事項を明確にする能力.
- 2 講義の話題 (topics)を明らかにし, 話題の進展に, 広がりについていく能力.
- 3 話のなかの各章の関係を明らかにする能力. たとえば, 主たる考え, 一般化, 仮説, 支持, たとえ話など.
- 4 講義の言語構造(たとえば, 接続詞, 副詞, 日常用語など)を内容を理解するカギにする.
- 5 因果関係, 結論などの関係をinfer(推測する)する能力.
- 6 主題, 話題に関連するカギになる語彙項目を理解する能力.
- 7 文脈から言葉の意味を推論する能力.
- 8 前後関係の統一した内容を把握する力.
- 9 pitch, pace, keyなどの情報を知るうえでintonationを熟知すること.
- 10 話し手の姿勢が主題のほうに向いていることを探る能力.
- 11 じかに話すか, スピーカーを使うか, 視聴覚を使うかなど話者に順応して聴く能力.
- 12 accent, speedの違いについていける聴き手の能力.
- 13 講義の形(形式的, 会話的, 文章を読む話者, 計画性のない話者など)にあわせて, ついていくこと.
- 14 話者が文語調であろうと口語調であろうと, ついていく能力.
- 15 jokesなど無関係な事がらを認識する能力.
- 16 態度などで強調している所を見分ける能力.
- 17 質疑応答のなかでkeyになる内容の反復を伴っている場合があるので注意.
- 18 何回も繰り返される語がkey wordになりがちであるので, 特に, 「まとめ」の言葉を吟味する必要がある.

Conclusion

Listeningは非常に難しい技術である. 長期記憶, 短期記憶の問題や, 文脈によって推測(infer)する能力が必要になってくる. 文法, 語法, 語彙, 内容, 知識などあらゆる面を活用してListeningすることである.

受け身的にListeningしても身につかない. Active

Listeningによって積極的に意味を取ることである. 学問の集大成と言ってもいいし, 4技能(reading, writing, speaking, listening)のなかでも, 最も技術の高いものであると言える. 初, 中, 上級といった段階的取り組みが必要である.

REFERENCES

- Brown, Gillian. 1977. *Listening to Spoken English*. London: Longman.
- Clark, Herbert H., and Eve V. Clark. 1977. *Psychology and Language*. New York: Harcourt Brace Jovanovich.
- Richards, Jack C. 1987. *Listening Comprehension: Approach, Design, Procedure, Methodology in TESOL: Book of Readings*, Newbury House Publishers.
- Schank, Roger C., and Robert P. Abelson. 1977. Scripts, plans and Knowledge. In *Thinking: Readings in Cognitive Science*, P. N. Johnson-Laird and P. C. Wason (eds.), 421-432. Cambridge: Cambridge University Press.
- Woods, H.B. 1979. *Rhythm and Unstress*. Hull, Canada: Canadian Government Publishing Center.

(兵庫県立星陵高等学校教諭)